

北陸地方建設事業推進協議会

平成26年度

「建設技術報告会」

実 施 報 告 書

平成26年11月

北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」実行委員会

目 次

1. 開催概要	
1) 目的	1
2) 開催日時	1
3) 開催場所	1
4) 構成と報告時間	3
5) 報告技術のテーマ	3
6) 主催構成機関及び実行委員会構成員	4
7) 聴講者数及び聴講者数の推移	5
2. 実施内容	
1) 開会式	6
2) 基調講演	6
3) 技術報告	6
4) 閉会式	7
5) 報告技術一覧	7
6) パネル等展示コーナー	9
7) CPD／CPDS 認証プログラム	11
3. 準備及び運営・設営	
1) スケジュール	12
2) 主な経緯	12
3) 運営体制	13
4) 会場設営	14
4. 広報	
1) 広報活動	18
2) 広報等掲載一覧	18
5. アンケート	
1) 設問内容	22
2) 配布・回収	22
3) アンケート結果概要	23
4) 設問別集計結果	25

1. 開催概要

1) 目的

「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催されました。

本報告会は、平成7年度から開催され、今回で19回目の開催となりました。

2) 開催日時

■平成26年9月25日（木） 9時30分～16時30分

●受付
9時00分～ 3階ロビー〔ホワイエ〕

●開会式
9時30分～ 9時40分 第1会場〔3階メインホール〕
開会挨拶 北陸地方整備局 北陸技術事務所長 今野 和則
(台風接近のため代理)

●基調講演
9時40分～10時40分 第1会場〔3階メインホール〕
演題 北陸地方の塩害およびASRによる劣化事例から学ぶ
社会インフラの長寿命化対策
講演者 金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系
教授 鳥居 和之 氏

●技術報告（分科会方式）
10時50分～16時10分
第1会場 〔3階メインホール〕
第2会場 〔2階多目的会議室〕

●閉会式
16時20分～16時30分 第1会場〔3階メインホール〕
総評、閉会挨拶 平成26年度「建設技術報告会」実行委員長 今野 和則
(北陸地方整備局 北陸技術事務所長)

閉会式終了後の16時40分から3階ロビー ホワイエ で「CPD／CPDS」の受講証明書の発行を行いました。

3) 開催場所

■会場施設
富山国際会議場（新大手町フォーラム）
住所：〒930-0084 富山市大手町1番2号
TEL：Tel (代)076-424-5931 (コクサイ) 076-493-4455 Fax 076-493-7170
URL：http://www.ticc.co.jp/

■使用会場

- | | | |
|---------------------|-------|------------------------------------|
| ●3階メインホール | 施設 3階 | 第1会場：開会式・基調講演・技術報告・閉会式
聴講席：491席 |
| ●2階多目的会議室 | 施設 2階 | 第2会場：技術報告
聴講席：216席 |
| ●3階メインホール
前 ホワイエ | 施設 3階 | パネル等展示コーナー |
| ●控室1 | 施設 2階 | 講師・来賓・事務局・運営スタッフ控室 |

■交通アクセス

- JR富山駅より
バス・・・約5分「城址公園前」下車 徒歩3分
徒歩・・・城址大通りを南へ約15分
市内電車（セントラム）・・・約7分「国際会議場前」下車
- 富山空港より
タクシー・・・約20分
バス（空港連絡バス）・・・約25分「総曲輪（そうがわ）」下車 徒歩2分
- 車（北陸自動車道）
富山 IC より約10分
富山西 IC より約20分



■会議場地下駐車場

	区分	料金	備考
駐車料金（1台）	1時間まで	300円	駐車台数 125台
	以降30分ごと	100円	
	23時から翌朝の8時まで1時間ごと	100円	

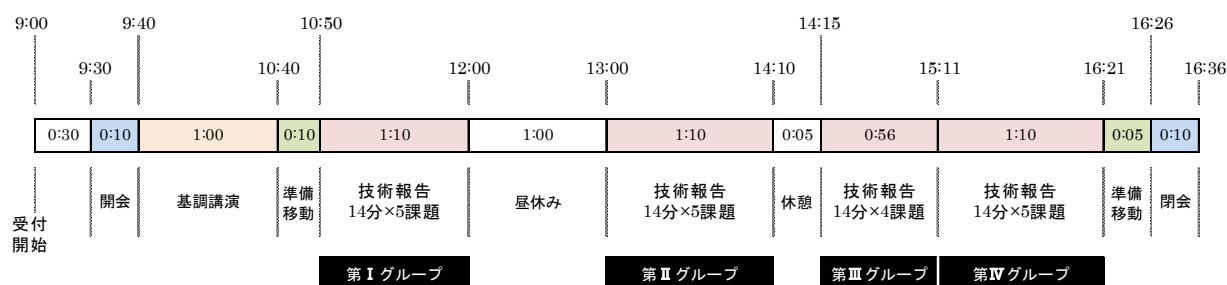
4) 構成と報告時間

基調講演と技術報告の2部構成とし、技術報告は2会場の分科会方式とした。

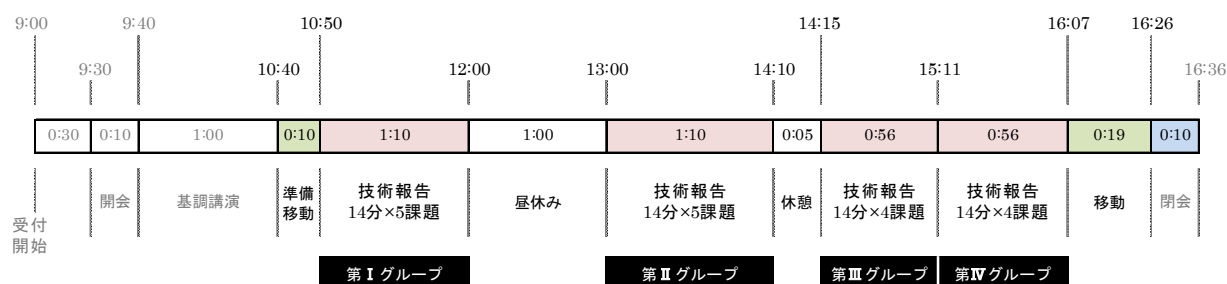
報告時間は「発表者入替」「プレゼンター立ち上げ」「質疑応答」を含めて1技術14分とし、1技術の報告終了毎に概ね3分間の質疑・応答時間を設けた。

技術報告：37技術（1技術×14分 質疑・応答含む）、基調講演：60分、昼休み：60分、休憩：5分

■第1会場：メインホール（3F）



■第2会場：多目的会議室 201・202・203（2F）



5) 報告技術のテーマ

「社会資本の的確な維持管理・更新」の新たなテーマを含め、7テーマの分類により、合計37技術の技術報告を行った。テーマ別報告技術数は以下のとおりである。

- ① 社会資本の的確な維持管理・更新 17題
(維持管理、長寿命化、更新に関する新技術 等)
- ② 雪に強い地域づくり 4題
(克雪対策、冬期道路交通の安全確保・安全性に関する新技術 等)
- ③ 良いものを安く 2題
(生産性向上、コスト縮減、省力化に関する新技術 等)
- ④ 自然災害からの安全確保 7題
(危機管理、土石流などの防災に関する新技術 等)
- ⑤ 環境の保全と創造 3題
(建設副産物、リサイクル、省エネルギー、再生可能エネルギーに関する新技術 等)
- ⑥ ゆとりと福祉 0題
(情報化、バリアフリーに関する新技術 等)
- ⑦ その他 4題
(その他①～⑥に属さない新技術 等)

6) 主催構成機関及び実行委員会構成員

■主催構成機関

主催は、『北陸地方建設事業推進協議会 平成26年度「建設技術報告会」実行委員会』である。
以下に実行委員会の構成機関（23機関）を示す。

北陸地方整備局／新潟県／富山県／石川県／新潟市／東日本高速道路(株)新潟支社／
中日本高速道路(株)金沢支社／(一社)日本建設業連合会北陸支部／
(一社)日本道路建設業協会北陸支部／(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部／
(一社)日本建設機械施工協会北陸支部／(社)新潟県建設業協会／(一社)富山県建設業協会／
(一社)石川県建設業協会／北陸土木コンクリート製品技術協会／
(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部／北陸PC防雪技術協会／
(一社)新潟県融雪技術協会／(財)新潟県建設技術センター／北陸地質調査業協会／
(一社)日本埋立浚渫協会北陸支部／(一社)北陸地域づくり協会／(一社)日本橋梁建設協会北陸事務所

■実行委員会構成員

役 員	所 属	役 職	備 考
委員長	北陸地方整備局 北陸技術事務所	事務所長	
副委員長	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所	事務所長	
委 員	北陸地方整備局 企画部 施工企画課	課 長	
委 員	北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課	課 長	
委 員	新潟県 土木部 技術管理課	土木工事検査監	会計監査員
委 員	富山県 土木部 建設技術企画課	技術指導係長	
委 員	石川県 土木部 監理課 技術管理室	課参事	
委 員	新潟市 都市政策部技術管理センター 技術管理課	課長	
委 員	東日本高速道路(株)新潟支社 技術部 技術企画課	課長代理	
委 員	中日本高速道路(株)金沢支社 総務企画部 企画調整チーム	サブリーダー	
委 員	(一社)日本建設業連合会 北陸支部	契約積算・技術副委員長	
委 員	(一社)日本道路建設業協会 北陸支部	幹事長	
委 員	(一社)日本建設機械施工協会 北陸支部	普及部会担当委員	
委 員	(一社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	広報委員長	
委 員	(一社)新潟県建設業協会	事務局長	
委 員	(一社)富山県建設業協会	常務理事	
委 員	(一社)石川県建設業協会	相談役	
委 員	北陸土木コンクリート製品技術協会	事務局長	
委 員	(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	広報部会長	
委 員	北陸PC防雪技術協会	事務局長	
委 員	(一社)新潟県融雪技術協会	技術委員長	
委 員	(一財)新潟県建設技術センター	情報管理部長	
委 員	北陸地質調査業協会	事務局長	
委 員	(一社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	技術委員長	
委 員	(一社)北陸地域づくり協会 技術部	専務理事	
委 員	(一社)日本橋梁建設協会 北陸事務所	所長	

7) 聴講者数及び聴講者数の推移

■聴講者数

本年度の聴講申込人数及び聴講実績人数は下表のとおりである。

当日は台風 16 号およびそれに伴う豪雨の影響で参加不可能となった参加者が多数居たため例年に比べ減少する結果となった。

【平成26年度「建設技術報告会」 聴講者集計表】

機関・団体名		申込	実績
官公庁	国交省(関東地整含む)、新潟県、富山県、長野県、新潟市、市町村他	144	142
民間		349	261
発表者(官公庁)		5	5
発表者(民間)		32	32
報道		0	3
合計		530	443

■「建設技術報告会」聴講者数の推移

【過去5年の聴講者数内訳】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
開催地	富山市	新潟市	金沢市	新潟市	富山市
国交省	43	67	65	60	70
自治体	49	24	100	93	77
民間(協会等)	459	411	336	418	293
計	551	502	501	571	440

【「建設技術報告会」聴講者数(第1回～第19回)】

回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回
年度	1995年	1996年	1997年	1998年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
開催地	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市	新潟市	富山市	新潟市	新潟市	金沢市	新潟市	新潟市	新潟市	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市	富山市
国土交通省等	39	68	112	94	100	89	72	72	80	105	45	47	33	47	43	67	65	60	70
自治体	39	202	116	129	69	86	87	50	31	34	18	29	24	23	49	24	100	93	77
民間(協会等)	189	373	430	209	364	401	471	354	360	319	278	302	404	343	459	411	336	418	293
学校						3		35	7										
合計	267	643	658	432	533	579	630	511	478	458	341	378	461	413	551	502	501	571	440



第1会場



第2会場

2. 実施内容

1) 開会式

時 間：9時30分～9時40分
会 場：第1会場〔3階メインホール〕
開会挨拶：北陸地方整備局 北陸技術事務所長 今野 和則
※企画部長 小口 浩 を予定していたが台風16号の影響で変更
司 会：北陸技術事務所 副所長 堤 雄生



2) 基調講演

時 間：9時40分～10時40分
会 場：第1会場〔3階メインホール〕
演 題：北陸地方の塩害およびASRによる劣化事例から学ぶ
社会インフラの長寿命化対策
講 演 者：金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系
教授 鳥居 和之 氏
司 会：北陸技術事務所 副所長 堤 雄生



3) 技術報告

時 間：10時50分～16時10分	
会 場：第1会場〔3階メインホール〕	19技術
第2会場〔2階多目的会議室〕	18技術
司 会：第1会場 (一社)日本建設業連合会 北陸支部 (鹿島建設株)	永嶋 聡志
北陸地方整備局 企画部 施工企画課 課長補佐	小泉 倫彦
第2会場 (一社)日本道路建設業協会 北陸支部 (鹿島道路建設株)	丹羽 吉正
北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課 課長補佐	丸山 雄司



第1会場 報告状況



第2会場 報告状況

4) 閉会式

時 間：16時20分～16時30分
 会 場：第1会場〔ホール棟 ホール〕
 閉会挨拶：「建設技術報告会」実行委員長 今野 和則
 （北陸地方整備局 北陸技術事務所長）
 司 会：北陸技術事務所 副所長 堤 雄生



5) 報告技術一覧

報告技術の募集を5月15日から開始し、37技術の応募があった。

技術報告は以下の37技術であった。

『伸縮式ストラット工法の開発について』あおみ建設(株)については、台風16号による交通の乱れにより発表者が到着できず残念ながら見送りとなった。同様に『FRP 防護板を用いた橋梁の防食技術』宮地エンジニアリング(株)、『バルーングラウト工法』東亜建設工業(株)の2件は代理発表となった。

【報告技術一覧表】

(その1)

テーマ 番号	技術名	会社(機関)名
①	老朽化した道路橋点検に関する地方公共団体支援について	北陸地方整備局 北陸技術事務所 維持管理技術課
①	めっき下地と金属溶射を用いた二重防錆ボルト	川田工業(株)
①	わだち掘れ抑制対策としての遮熱性舗装適用例	(株)NIPPO 北信越支店
①	ネプラス工法(側溝上部改修工法)の開発	高橋土建(株)
①	重交通などに対応した路面維持工法 ST リペアコート	世紀東急工業(株) 技術部
①	FRP 防護板を用いた橋梁の防食技術	宮地エンジニアリング(株)
①	コンクリート舗装上のオーバーレイ層に適用したリフレクションクラックの発生を抑制する舗装	大成ロテック(株) 技術研究所
①	中島閘門 放水路水門 補修工事について	富山県 富山土木センター
①	空港エプロン舗装等における接着剤塗布型付着オーバーレイ工法に適應させた接着剤塗布機械の開発について	鹿島道路(株) 生産技術本部 技術部
①	伸縮式ストラット工法の開発について	あおみ建設(株) 土木本部 技術開発部
①	コンクリート単位水量測定器の改良開発について (W/C ミータ MT-400)	(一社)北陸地域づくり協会 技術部 事業調査室
①	乾式吹付耐震補強工法	第一建設工業(株) 土木本部 コンクリート事業部
①	水平締固めによる廃棄物処分場 延命化技術 『TLT工法』	(株)本間組 土木事業本部 技術部 技術開発研究室
①	老朽化吹付法面を再構築するニューレスプ工法	日特建設(株) 技術本部 技術営業部
①	空中放射音波による遠距離非接触非破壊検査技術/NCAL 法	佐藤工業(株) 技術研究所
①	長距離圧送を実現した高強度モルタル吹付『キロ・フケール工法』	日特建設(株) 北陸支店 事業部技術部
①	老朽化した鋼矢板水路の補修・補強工法の開発	藤村ヒューム管(株) 技術営業部
③	トンネル専用側溝の開発	(株)アドヴァンス 製品開発推進部
③	二重壁構造を持つジオテキスタイル補強土壁「アデムウォール」の塩害対策	アデムウォール協会

(その2)

④	建設機械による無人化・自律施工	大成建設(株) 技術センター 土木技術開発部 先端技術開発室
④	開放型耐震補強工法「SMIC 工法」の開発	名工建設(株) 建築本部 建築技術部 SMIC 事業課
④	一般県道清水小滝谷線道路災害復旧事業について	富山県 土木部 建築住宅課
④	バルーングラウト工法	東亜建設工業(株) 土木事業本部 防災事業室
④	没水型港内長周期波対策構造物	(株)不動テトラ ブロック環境事業本部 総合技術研究所

④	下新川海岸の水防警報発令判断プログラムの改良について	北陸地方整備局 黒部河川事務所 調査課
④	厳しい施工条件下でも対応可能な液状化対策技術 ーSAVE-SP 工法ー	(株)不動産トラ 北関東支店 研究室
⑤	トンネル発破低周波音抑制技術「ブラストウェイブ・イーター(BWE)」	清水建設(株) 土木技術本部 技術開発部
⑤	樹脂固定による制振軌道の施工事例と供用性の評価について	日本道路(株) 技術営業部
⑤	泥土リサイクル技術「ボンテラン工法」	(株)宮地組
⑦	伏木富山港(新湊地区)臨港道路東西線(新湊大橋)のケーブル振動対策について	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所 技術開発課
⑦	シェル型浸透固化処理工法	五洋建設(株) 技術研究所
⑦	超高強度繊維補強コンクリートによる場所打ちでの道路橋の施工	鹿島建設(株) 北陸支店
⑦	Ap_pass工法(大型プレキャストアーチカルバート)	日本サミコン(株)
②	フル・ファンクション・ペーパー(FFP)追跡調査結果について	(株)ガイアートT・K 東北支店 工事部
②	粗面型ゴム粒子入り凍結抑制舗装「アイストツパー」	大林道路(株) 技術研究所 材料研究室
②	雪道で役立つ様々な舗装技術	福田道路(株) 技術研究所
②	地中熱利用ヒートパイプ融雪工法の施工事例	(株)興和 水工部

①社会資本的的確な維持管理・更新	(1 7 題)	②雪に強い地域づくり	(4 題)
③良いものを安く	(2 題)	④自然災害からの安全確保	(7 題)
⑤環境の保全と創造	(3 題)	⑥ゆとりと福祉	(0 題)
⑦その他	(4 題)		

6) パネル等展示コーナー

主催機関の傘下会社で開発された新技術・新工法などを対象に技術パネル等の展示コーナーを併設した。本コーナーは各出展者の協力依頼し「説明員の配置」や「模型や映像による説明」を行った。なお、技術パネル等の展示は展示希望を募り、展示希望のあった31企業から展示が行われた。

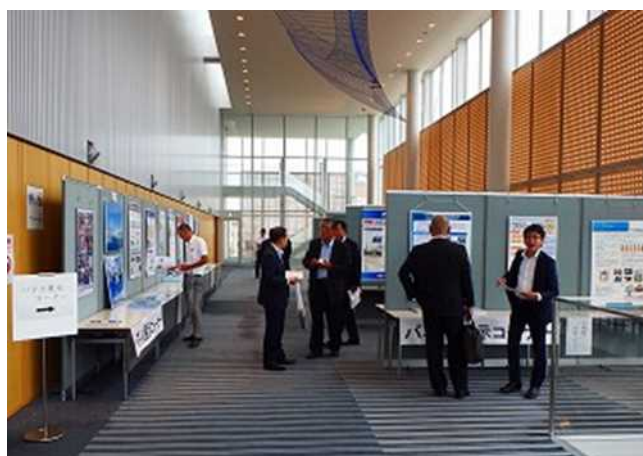
時 間：9時00分～16時00分

※昼休憩（11:50～12:50）、PM休憩（13:50～14:10）に原則、説明員を配置依頼
会 場：3階ロビー〔ホワイエ〕

【パネル等展示一覧表】

ブース 番号	出展技術	出展者	区分
①	建設・防災関連	北陸地方整備局 企画部	共通
②	港湾・空港関連	北陸地方整備局 港湾空港部	共通
③	土木構造物のリニューアル技術	鹿島建設(株)	共通
④	空中放射音波による遠距離非破壊検査技術/NCAI 法	佐藤工業(株)	共通
⑤	乾式吹付耐震補強工法	第一建設工業(株)	共通
⑥	建設機械による無人化・自律施工	大成建設(株)	共通
⑦	ニューレスプ工法	日特建設(株)	共通
⑧	開放型耐震補強工法 SMIC 工法	名工建設(株)	共通
⑨	地中熱を用いた空調・融雪システム	(株)日さく	共通
⑩	KS-S・MIX（大口径相対攪拌深層混合処理）工法	あおみ建設(株)	共通
⑪	シェル型浸透固化処理工法	五洋建設(株)	共通

⑫	W/CミータMT-400	(一社)北陸地域づくり協会	共通
⑬	バルーングラウト工法	東亜建設工業(株)	港湾
⑭	押航式全旋回起重機船(400t吊)『にいがた401』	(株)本間組	港湾
⑮	老朽化した鋼矢板水路の補修・補強工法『ストパネ工法』	藤村ヒューム管(株)	河川
⑯	多視点画像3D構築技術によるインフラの維持管理	パシフィックコンサルタンツ(株)	河川
⑰	砂圧入式静的締固め工法-SAVE-SP工法-	(株)不動テトラ	河川・道路
⑱	祖面型ゴム粒子入り凍結抑制舗装「アイストッパー」	大林道路(株)	道路
⑲	土木用高耐久型エポキシ系接着剤KSボンド	鹿島道路(株)	道路
⑳	パーミアコン(ポーラスコンクリート舗装)	(株)佐藤渡辺	道路
㉑	リラクスファルト	大成ロテック(株)	道路
㉒	凍結抑制舗装・ザベック工法タイプG	世紀東急工業(株)	道路
㉓	ネプラス工法	高橋土建(株)	道路
㉔	高性能常温補修用混合物	東亜道路工業(株)	道路
㉕	環境対応舗装	(株)NIPPO	道路
㉖	樹脂固定軌道(LRT用制振軌道)	日本道路(株)	道路
㉗	雪道で役立つ様々な舗装技術	福田道路(株)	道路
㉘	トンネル専用側溝	(株)アドヴァンス	道路
㉙	Ap-pass工法(大型プレキャストアーチカルバート)	日本サミコン(株)	道路
㉚	二重壁構造を持つジオテキスタイル補強土壁「アデムウォール」	ジオテキスタイル二重壁補強土壁工法検討委員会(アデムウォール協会)	道路
㉛	FRP防護版	宮地エンジニアリング(株)	道路



パネル等展示コーナー

7) CPD/CPDS認証プログラム

社会資本整備に携わる建設技術者の技術力向上の場として、本報告会を積極的に活用していただくことを目的に、平成20年度より建設系CPD協議会による「CPD(継続教育)」プログラム及び社団法人

全国土木施工管理技士会連合会による「CPDS（継続学習制度）」の認定講習となっており、その対象者への受講証明の交付を行った。交付数は聴講者全体の 32%（140/440）、民間聴講者の 48%（139/293）であった。

■受講受付

時 間：9時00分～10時00分
場 所：3階ロビー〔ホワイエ〕
聴講受付ー受講証明書引換券配付

■受講証明発行

時 間：16時30分～17時00分
場 所：3階ロビー〔ホワイエ〕
CPD/CPDS 受付ー引換券により受講証明書発行

平成26年度 受講証明書交付数：149人（CPDー 64人 CPDSー 85人）



CPDS 受講証明書 引換券

建設系CPD協議会加盟団体主催CPD申請書・受講証明書

建設系CPD協議会加盟団体の主催する講習会受講記録を、建築工学会、全国土木施工管理技士会連合会、農業農村工学会のいずれかにCPD申請する場合は、以下の内容を記入して、プログラム開催主催者の受講証明印をもった上で団体事務局宛てに送付（FAX）してCPD申請を行ってください。

項目名	申請内容
申請日	年 月 日
申請者名	
会社名等	
会社住所等	
TEL	
FAX	
所属団体（学会）名	
会員番号	
開催日	平成26年9月25日
CPDプログラム名称	平成26年度「建設技術報告会」
CPDプログラム番号	CPDプログラム番号：201408190005
主催者	平成26年度「建設技術報告会」実行委員会
開始～終了時間	9時30分～16時30分
CPD単位	6単位
開催地	富山県富山市大千町1番2号 富山国際会議場（大千町フォーラム）

【CPDプログラム主催者の方へお願い】
プログラム名、開催日、受講者氏名をご課題の上、証明印欄をご記入して証明印をお願いいたします。

証明印欄名 北陸地方建設事業推進協議会
平成26年度「建設技術報告会」実行委員会

※CPD記録申請にあたって本受講証明が必要となる団体
建築工学会、全国土木施工管理技士会連合会、農業農村工学会

No.

受講証明書

受講者名、又は 通し番号			
プログラム名称	平成26年度「建設技術報告会」（第一会場）※形態コード101		
プログラム番号	268834	ユニット数	6 unit
講習日・時間	2014年9月25日 9:30～16:30		
講習会場	【富山県】富山国際会議場（大千町フォーラム）		

上記の者について、講習会を受講したことを証明します。

2014年9月25日

主催：北陸地方建設事業推進協議会
平成26年度「建設技術報告会」実行委員会

CPDS 受講証明書

3. 準備及び運営・設営

1) スケジュール

平成26年度「建設技術報告会」は、下記のとおり実施した。

北陸地方建設事業推進協議会「平成26年度 建設技術報告会」運営スケジュール記録

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
実行委員会等												
北陸地方建設事業推進協議会運営委員会		● 2/17(月)										
実行委員会開催（会議資料作成等）			事前準備	● 5月14日（水）						事前準備	● 11月26日（水）	
協議・決定事項等	・規約、実施計画、予算の協議・承認							・実施結果報告、決算報告承認				
報告技術募集及び原稿作成等												
各案内用チラシ原稿作成				報告技術募集用		聴講募集用						
ホームページ開設・運営				5/15（金）	6/20（金）	7/9（水）	8/29（金）		9/30（火）			
報告技術募集・取りまとめ（主催機関）				5/15（金）	6/20（金）							
報告技術検討・選定					6/20（金）	7/4（金）						
採否通知結果送付（事務局）						● 7/4（金）						
報告論文原稿作成・提出（報告技術発表者）						7/4（金）	8/8（金）					
プレゼンデータ作成・提出（報告技術発表者）						7/4（金）	8/29（金）					
技術パネル展示募集・取りまとめ（主催機関等）				5/15（金）	6/20（金）							
聴講募集（主催機関等）						7/9（水）	8/29（金）	9/5（金）	最大延長期間			
報告論文集（CD版）作成（主催機関へ発送）						校正・作成 7月下旬	CD作成 8月初旬	8/29（金）	●主催機関へ発送（9月5日 HP掲載に変更）			
その他												
基調講演者依頼・報道技込み				基調講演講師 検討・選定・依頼 5月初旬	6/20（金）				●報道関係への投げ込み 9/19（金）			
CPD／CPDSプログラム登録申請							7/30（水）					
報告会開催								● 9/25（木）				

2) 主な経緯

会議名等	実施日時	会場	内容
平成26年度 北陸地方建設事業推進協議会運営委員会	平成26年2月17日（火）	北陸地方整備局 4階 会議室	「建設技術報告会」の開催承認
平成26年度「建設技術報告会」 第1回実行委員会	平成26年5月14日（水） 14時00分～15時30分	新潟国道事務所 B棟会議室	規約（案）の協議・承認 実施計画（案）の協議・承認 予算（案）の協議・承認
平成26年度「建設技術報告会」開催	平成26年10月25日（金） 9時00分～16時30分	富山国大会議場 （大手町フォーラム） 3階メインホール他	報告会開催
平成26年度「建設技術報告会」 第2回実行委員会	平成26年11月26日（水） 13時00分～15時00分	北陸地方整備局 新潟国道事務所 B棟大会議室	実施結果報告 収支報告 次回開催について

3) 運営体制

報告会当日は、主催構成機関・団体からの運営スタッフ及び会場施設スタッフの26名（官：14名、民：12名）の協力により実施した。

機関・団体別 スタッフ人数

国土交通省 北陸地方整備局					主催 協力機関・団体								合計
企画部 施工企画 課	港湾空港部 海洋環境・技 術課	伏木 富山 港湾	北陸 技術	小計	富山 県	富建 協	日建 連	道建 協	機械 協	建コ ン	埋浚 協	小計	
3	2	2	3	10	4	3	3	2	1	1	2	16	26

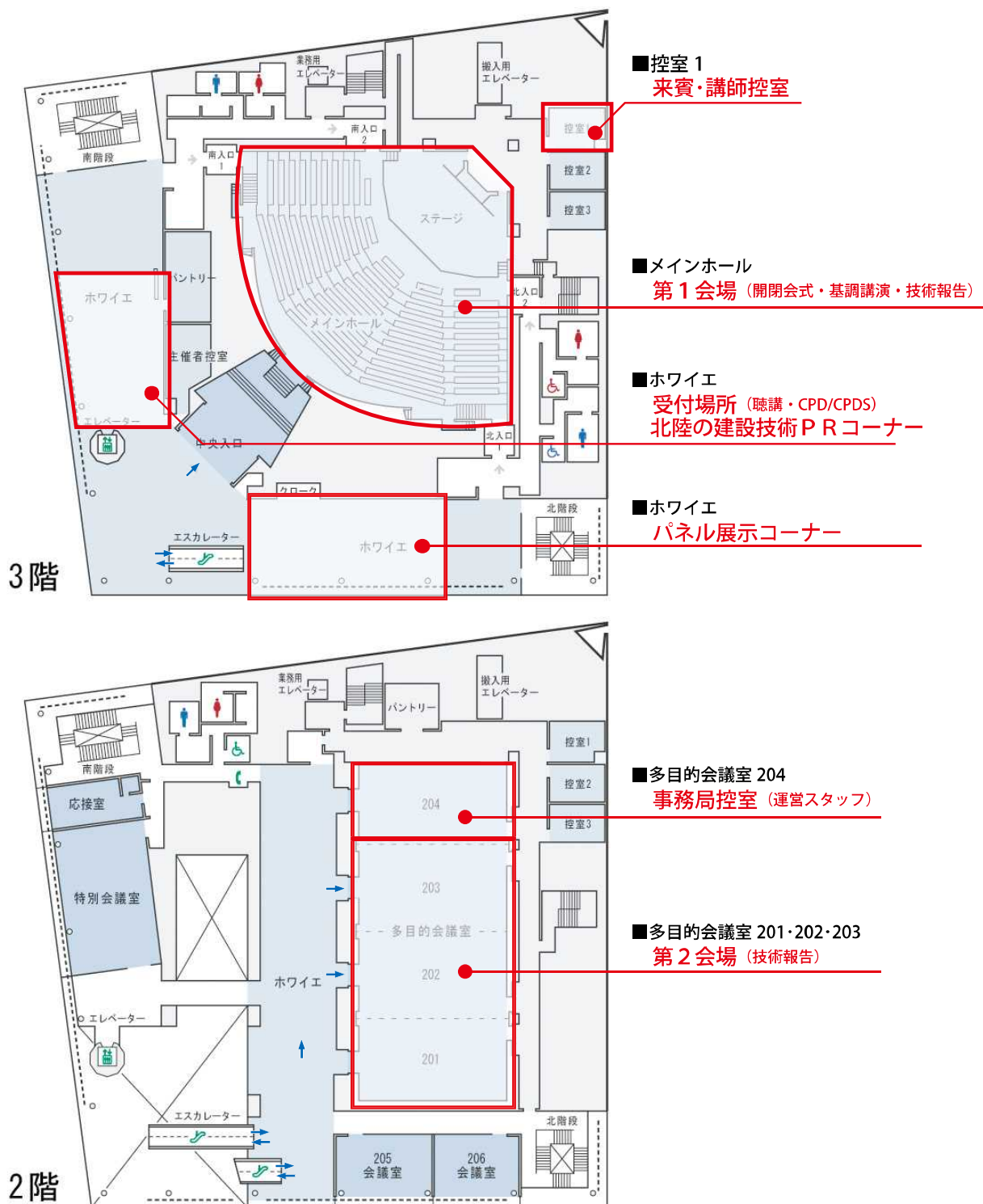
【運営体制表】

担当・対応時間・会場等				運営 人員	①北陸地方整備局 10人	②富山県 4人	③富山建設業協会 3人	④日本建設連合会 3人	⑤道路建設業協会 2人	⑥建設機械施工協会 1人	⑦建設コンサルタンツ協会 1人	⑧埋立浚渫協会 2人
受付係	聴講受付	9:00-16:36	受付開始 → 閉会終了 (終日)	2		見角 潤朗		本間 久雄				
		9:00-10:40	受付開始 → 講演終了	10		牧野 智博 浅井 信義	生駒 和秀 石田 裕伸	穴田 めぐみ	荒川 まさ子	坪内 昭雄	大藤 欣司	神蔵 昌士 阿部 宏之
	CPD/CPDS 受付	11:00-16:36	受付開始 → 閉会終了 (適宜)	(2)	(樋口 昌幸) (堀 雄生)							
		9:00-10:40 14:10-16:36	受付開始 → 閉会終了 → 最終	(6)	(小泉 倫彦) (丸山 雄司)							
		16:40-17:00	閉会終了 → 最終		(水道 龍次) (波多野 雅也) (藤井 武) (渡辺 健太)							
技術報告	司会係	10:45-14:10 (Ⅰ・Ⅱ)	第1会場	2	小泉 倫彦							
		14:15-16:21 (Ⅲ・Ⅳ)						永嶋 聡志				
		10:45-14:10 (Ⅰ・Ⅱ)	第2会場	2	丸山 雄司							
		14:15-16:07 (Ⅲ・Ⅳ)							丹羽 吉正			
	時間管理係	10:50-16:21	第1会場	(1)			(生駒 和秀)					
		10:50-16:07	第2会場	(1)		牧野 智博						
	パソコン係	10:50-16:21	第1会場	(1)			(石田 裕伸)					
		10:50-16:07	第2会場	(1)		浅井 信義						
	マイク受渡係	10:50-16:21	第1会場	(3)				(穴田 めぐみ)			(大藤 欣司)	(神蔵 昌士)
		10:50-16:07	第2会場	(2)					荒川 まさ子	坪内 昭雄		
	会場照明係	9:30-16:36	第1会場	—	会場スタッフ担当							
		10:50-16:07	第2会場	(1)								(阿部 宏之)
	写真係	9:00-10:40	全体 (開会・講演)	(2)		(寺岡 佑樹)	(寺島 秀峰)					
		10:50-16:21	第1会場	2		寺岡 佑樹						
		10:50-16:07	第2会場				寺島 秀峰					
事務局	総合司会	9:30-9:40 9:40-10:40 16:26-16:36	開会式 基調講演 閉会式	1	堀 雄生							
	来賓対応	9:00-11:00	第1会場 講師来賓控室	1	樋口 昌幸							
	マスコミ対応 (CPD/CPDS 受付と兼務)	11:00-16:36	受付常駐	(4)	(樋口 昌幸)							
		10:40-16:20			(堀 雄生)							
		9:00-10:40 14:10-16:36			(小泉 倫彦) (丸山 雄司)							
	連絡調整係	8:00-17:00	会場全体	2 (1)	松井 渉 (中村 学)							
		8:00-17:00 (実施状況・開閉会・基調講演 他)	会場全体	1	中村 学							
	運営設備係	9:40 10:40-10:50 16:21-16:26	第1会場 (配置替え)	4	水道 龍次 波多野 雅也 藤井 武 渡辺 健太							
		16:30-18:00	(パネル撤収)	(2)	(中村 学) (松井 渉)							
	接遇係	8:30-11:00	講師来賓控室									

4) 会場設営

■フロアマップ

使用会場の位置を示す。





開催案内



第1会場



第2会場



聴講受付



CDD/CPDS 受付



CDD/CPDS 受講証明書配布状況



来賓控室

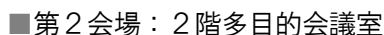


アンケート回収箱



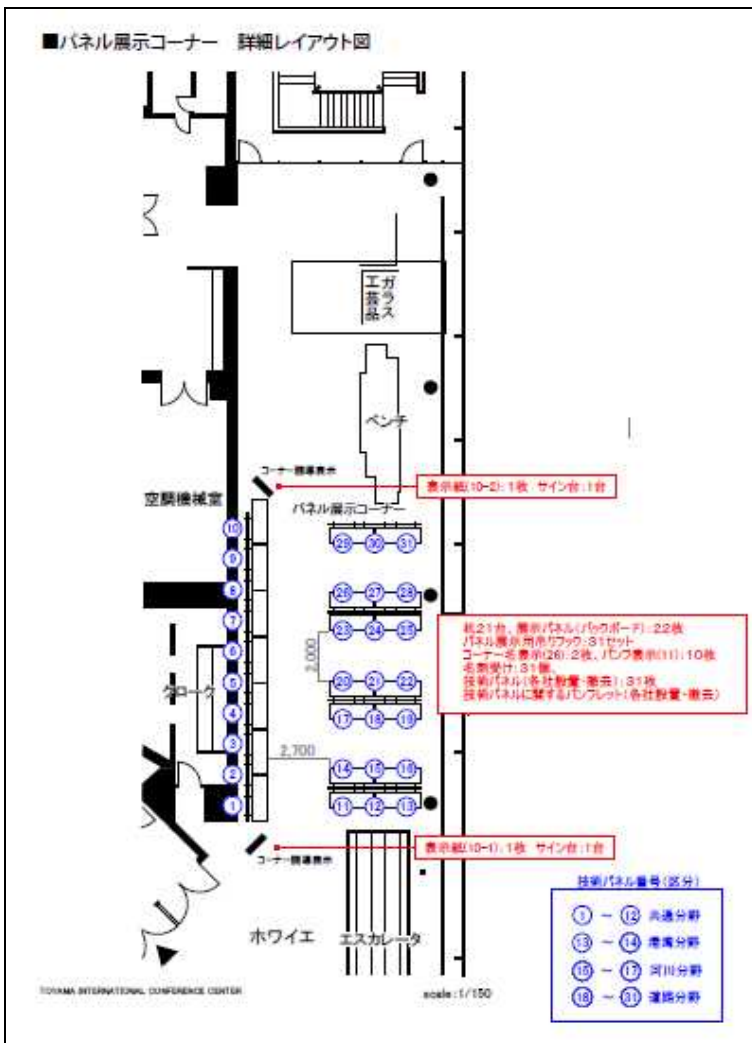
会場サイン

■第一会場：3階メインホール



■会場詳細レイアウト図ーパネル等展示コーナーー

ブース 番号	出展技術	出展者	区分
①	建設・防災関連	北陸地方整備局 企画部	共通
②	港湾・空港関連	北陸地方整備局 港湾空港部	共通
③	土木構造物のリニューアル技術	鹿島建設(株)	共通
④	空中放射音波による遠距離非破壊検査技術/NCAI法	佐藤工業(株)	共通
⑤	乾式吹付耐震補強工法	第一建設工業(株)	共通
⑥	建設機械による無人化・自律施工	大成建設(株)	共通
⑦	ニューレスプ工法	日特建設(株)	共通
⑧	開放型耐震補強工法 SMIC工法	名工建設(株)	共通
⑨	地中熱を用いた空調・融雪システム	(株)日さく	共通
⑩	KS-S・MX (大口径相対撹拌深層混合処理) 工法	あおみ建設(株)	共通
⑪	シェル型浸透固化処理工法	五洋建設(株)	共通
⑫	W/CミートMT-400	(一社)北陸地域づくり協会	共通
⑬	バルーングラウト工法	東亜建設工業(株)	港湾
⑭	押航式全旋回起重機船(400t吊)『にいがた401』	(株)本間組	港湾
⑮	老朽化した鋼次板水路の補修・補強工法『ストパネ工法』	藤村ヒューム管(株)	河川
⑯	多視点画像3D構築技術によるインフラの維持管理	パシフィックコンサルタンツ(株)	河川
⑰	砂圧入式静的締固め工法-SAVE-SP工法-	(株)不動テトラ	河川・道路
⑱	祖面型ゴム粒子入り凍結抑制舗装「アイストップ」	大林道路(株)	道路
⑲	土木用高耐久型エポキシ系接着剤KSボンド	鹿島道路(株)	道路
⑳	パーミアコン(ポーラスコンクリート舗装)	(株)佐藤渡辺	道路
㉑	リラクスファルト	大成ロテック(株)	道路
㉒	凍結抑制舗装・ザベック工法タイプG	世紀東急工業(株)	道路
㉓	ネプラス工法	高橋土建(株)	道路
㉔	高性能常温補修用混合物	東亜道路工業(株)	道路
㉕	環境対応舗装	(株)NIPPO	道路
㉖	樹脂固定軌道(LRT用制振軌道)	日本道路(株)	道路
㉗	雪道で役立つ様々な舗装技術	福田道路(株)	道路
㉘	トンネル専用側溝	(株)アドヴァンス	道路
㉙	Ap_pass工法(大型ブレイキャストアーチカルバート)	日本サミコン(株)	道路
㉚	二重壁構造を持つジオテキスタイル二重壁補強土壁「アデムウォール」	ジオテキスタイル二重壁補強土壁工法検討委員会(アデムウォール協会)	道路
㉛	FRP防護版	宮地エンジニアリング(株)	道路



4. 広報

1) 広報活動

種別・内容	方 法	時 期	摘 要
チラシ配布	配布・募集	5月15日～ 7月9日～	実行委員会 主催機関・団体
定期刊行誌	掲載 掲載依頼	8月号（聴講募集） 10月号（開催結果） 適宜	
記者クラブ	記者発表	9月19日	開催概要 プログラム
ホームページ	開設・運用	5月15日～（報告技術募集） 7月9日～（聴講募集） 適宜	

2) 広報等掲載一覧

■TV新聞報道

掲載紙	発行機関	掲載月日
日刊建設工業新聞	日刊建設工業新聞社	平成26年 9月22日（月）
NHK富山ローカルニュース	NHK富山放送局	平成26年 9月25日（金）
日刊建設工業新聞	日刊建設工業新聞社	平成26年 9月26日（土）
日刊建設通信新聞	日刊建設通信新聞社	平成26年 9月26日（土）

■定期刊行誌

掲載紙	発行機関	掲載号
北陸の建設技術	北陸地方建設事業推進協議会	8月号（聴講募集） 10月号（開催結果）

※来年度、各団体が発行する提起刊行誌への掲載のご検討をお願いします。

■ホームページ

掲載機関	掲載コンテンツ
（一社）日本建設機械施工協会北陸支部	「What's news」、「トップ（バナー掲載）」
（社）新潟県建設業協会	「新着情報」
（一社）富山県建設業協会	「新着情報」
北陸土木コンクリート製品技術協会	「トップ（バナー掲載）」
（一社）新潟県融雪技術協会	「トップ（バナー掲載）」
（一社）北陸地域づくり協会	「トップ（バナー掲載）」
国土交通省北陸地方整備局	「トップ（イベント情報）」
国土交通省新潟港湾空港技術調査事務所	「トップ（バナー掲載）」
国土交通省北陸技術事務所	「トップ（バナー掲載）」

※引き続きHPでの広報にご協力をお願いします。また、今回、掲載のなかった団体等も来年度はご検討をお願いします。

平成26年9月26日(金) 朝刊

老朽化対策など37題を発表

新工法普及へ建設技術報告会

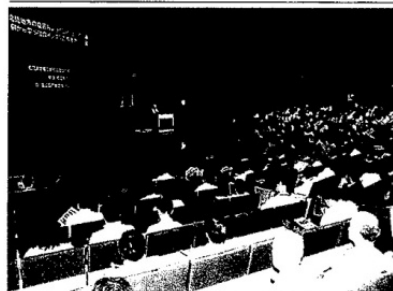


あいさつする今野実行委員長

建設技術者の研究・開発・普及の場として、北陸地方建設技術者協議会が25日、富山市大手町の富山国際会議場で開催された。参加した約500人は、老朽化対策に関する新技術などに理解を深めた。

主催は北陸地方整備局、富山県、富山、石川の3県、新潟市、建設業関連団体から構成する北陸地方建設技術者協議会。報告会では、新技術・新工法の活用普及と北陸地域の活性化につなげることを目的に、最新の建設技術を発表する。14年度「建設技術報告会」が25日、富山市大手町の富山国際会議場で開催された。参加した約500人は、老朽化対策に関する新技術などに理解を深めた。

主催は北陸地方整備局、富山県、富山、石川の3県、新潟市、建設業関連団体から構成する北陸地方建設技術者協議会。報告会では、新技術・新工法の活用普及と北陸地域の活性化につなげることを目的に、最新の建設技術を発表する。14年度「建設技術報告会」が25日、富山市大手町の富山国際会議場で開催された。参加した約500人は、老朽化対策に関する新技術などに理解を深めた。



約500人が参加した報告会＝25日、富山市内

北陸地方事業推進協

建設技術者の研究・開発・普及の場として、北陸地方建設技術者協議会が25日、富山市大手町の富山国際会議場で開催された。参加した約500人は、老朽化対策に関する新技術などに理解を深めた。

主催は北陸地方整備局、富山県、富山、石川の3県、新潟市、建設業関連団体から構成する北陸地方建設技術者協議会。報告会では、新技術・新工法の活用普及と北陸地域の活性化につなげることを目的に、最新の建設技術を発表する。14年度「建設技術報告会」が25日、富山市大手町の富山国際会議場で開催された。参加した約500人は、老朽化対策に関する新技術などに理解を深めた。



最新の43技術 一堂に

富山の最新の建設技術・工法を紹介する2014年度建設技術報告会が25日、富山市の富山国際会議場で開かれた。北陸地方整備局を始めとする行政機関と建設業団体などが共催したもので、43技術が発表、展示された。写真。

報告会では新技術・工法の活用普及と北陸地域の建設技術者の研鑽(さん)を目的に毎年開かれており、今回は19回目。「社会資本の耐久的な維持管理更新」「雪に強い地域づくり」(良)

富山で建設技術報告会

ものをつくる「自然災害からの安全確保」「環境の保全」「創造」「ゆとりと福祉」など、分野で37技術が発表されたほか、会場の一隅には、パネルなども展示された。

報告発表に先立って、「北陸地方の整備と、北陸地方の活性化をテーマにした、金沢大の鳥居和久教授による基調講演も行われた。会場には市民の建設技術者多数が詰めかけ、発表に関心していた。

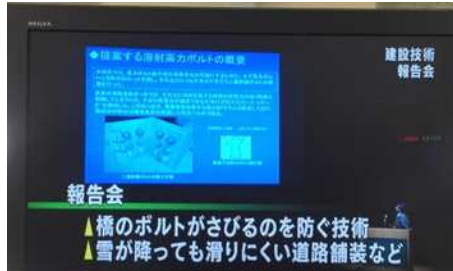
北陸整備局ら 25日に富山市で技術報告会 6テーマで37技術紹介

北陸地方整備局と北陸3県など組織する北陸雪に強い地域づくり、良地方建設技術者協議会が25日、富山市の富山国際会議場で14年度の建設技術報告会を開く。

主に北管内の企業が、新技術や新工法を広く紹介して、より一層普及させることを目的に、今年で19回となる。報告会では、社会資本の

雪に強い地域づくり、良地方建設技術者協議会が25日、富山市の富山国際会議場で14年度の建設技術報告会を開く。

主に北管内の企業が、新技術や新工法を広く紹介して、より一層普及させることを目的に、今年で19回となる。報告会では、社会資本の



◆北陸の建設技術（8月号）掲載事例（開催のお知らせ）



北陸地方建設事業推進協議会 第26年度
定例会 開催要旨

北陸の建設技術

VOL.280

10

2014

トピックス TOPICS

建設分野の新技術・新工法 平成26年度「建設技術報告会」を開催

■平成26年度「建設技術報告会」実行委員会

9月25日（木）に北陸地方建設事業推進協議会（以下「民間26協団」で構成される実行委員会が主催する平成26年度「建設技術報告会」が富山県金沢市（大手町フォーラム）において、近50名の観客を集める開催されました。

この「報告会」は、北陸地方における建設事業の発展を促すために、概ねに開発された最新の技術・新工法等を紹介することにより、研究開発関係者の意見を交換することを目的と開催され、平成27年度から今年度の開催となりました。

開会式では来賓者各代表として北陸土木建築協会 常幹 志賀良彦事務局長が、「本報告会が民間26協団各会及び定例会において新しい技術や新設備などの最新技術・新工法、または活用された最新情報等、民間および行政の両者にたいし最も信頼感ある発表を通じた交流を図ることを目指すとします。時差博場となり一層熱気あふれる施設となることにより、中野的かつ活気ある集まりの一助となることを希望します。」と挨拶されました。

引き続き「基盤施設」として、余田氏が「地下鉄建設 現場管理システム 建設 品質の向上」と題して「建設地方の施設がSBCによる効率化への期待がIT等の活用促進」と題し講演していただきました。

続いて、北陸における電音およびASB（アルカリリチウム電池）による建築物等の劣化対策に関して浅井氏の講演も好評を受けることが確認されたとのことです。

観客の約四割は若手職員の参加といわれており注目のところとされています。

余田 良彦氏
（北陸土木建築協会長）

余田 良彦氏
（金沢大学 環境工学部 建築デザイン学 教授 建設 科長氏）

会場後方の様子（奥より前列）

会場前方の様子（奥より前列）

北陸地方建設事業推進協議会

[illegible]

◆HP掲載事例（バナー掲載）

新潟港湾空港技術調査事務所

日本建設機械施工協会北陸支部

新潟県融雪技術協会

北陸土木コンクリート製品技術協会

北陸地域づくり協会

5. アンケート

次回以降の開催の参考とするため、聴講者を対象にアンケート調査を実施した。

1) 設問内容

北陸地方建設事業推進協議会

「平成26年度 建設技術報告会」アンケート

建設技術報告会にご参加いただき誠にありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますため、アンケート調査にご協力下さい。

* 回答は、記述式の設問以外は該当する記号を○で囲んでください。

問1. 職業・職種をお聞かせ下さい。

A. 国土交通省職員 B. 県職員 C. 市町村職員 D. 公益企業職員
E. A～Dに属さない官公庁（機関名：）
F. 建設関連の会社（技術職） G. 建設関連の会社（事務職）
H. 建設関連の協会・団体 I. その他（）

問2. 主な仕事分野をお聞かせ下さい。

A. 河川 B. 道路 C. 砂防 D. 港湾空港 E. 営繕
F. 上下水道 G. 共通（） H. その他（）

問3. どちらから来られましたか。

A. 富山市内 B. 富山市を除く富山県内（） C. 新潟県
D. 石川県 E. その他（）

問4. この報告会を何で知りましたか。

A. 協会・団体からの案内 B. ホームページ C. チラシ
D. 国土交通省・県・市からの案内 E. くちこみ F. その他（）

問5. この報告会の参加回数を聞かせ下さい。

A. 初めて B. 2～5回 C. 5～10回 D. 10回以上

問6. 建設事業への新技術導入の必要性について聞かせ下さい。

A. 必要性を感じる B. 多少感じるが急務の問題ではない C. 特に問題意識はない

問7. 上記の問6. で「A. 必要性を感じる」または「B. 多少感じるが急務の問題ではない」に○をされた方にお聞きします。どの分野に必要性を感じますか（複数回答可）。

A. 雪に強い地域づくり・「雪害対策技術」、「冬期道路交通の安全確保」等
B. 良いものを安く・「コスト削減技術」、「省力化技術」、「生産性向上技術」等
C. 自然災害からの安全確保・「土石流などからの防災技術」、「災害対策技術」等
D. 環境の保全と創造・「リサイクル技術」、「省エネルギー技術」、「環境整備技術」等
E. ゆとりと福祉・「生活者の安全健康技術」、「情報化技術」等
F. 社会資本の的確な維持管理・更新・「シシツ・モビリティ」技術、「維持管理費削減や耐久性のある材料」等
G. その他（）

問8. 新技術導入の障害となっているものがあるとすれば、それは何か聞かせ下さい。

A. 経費的なもの B. 構築体系等制度的なもの C. 新技術に関する情報不足（工法選定 etc）
D. その他（）

（裏面の記入をお願いします。）

問9. 今回の報告会を聴講して、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術、関心の高かった技術を3題まで選んでご記入下さい。

1. 報告技術名〔 〕
会 社 名〔 〕
2. 報告技術名〔 〕
会 社 名〔 〕
3. 報告技術名〔 〕
会 社 名〔 〕

問10. 報告会の開催時期について聞かせ下さい。

A. 今の時期が良い B. その他（月頃）

問11. 報告技術1題あたりの報告時間について聞かせ下さい。

A. 長い B. 適当 C. 短い

問12. この報告会の開催について聞かせ下さい。

A. 今後も続けて欲しい B. 特に開催の必要性を感じない C. 内容を改善して続けて欲しい

問13. 上記の問12. で「B. 特に開催の必要性を感じない」「C. 内容を改善して続けて欲しい」に○をされた方にお聞きします。理由またはどのような内容を望まれていますか。

問14. 基調講演について聞かせ下さい。

A. 今後も続けて欲しい B. 特に必要ない C. 講演内容を改善して欲しい

問15. 発表形式や会場設営について聞かせ下さい。

A. とても良かった B. 良かった C. あまり良くなかった
「C. あまり良くなかった」を選択された方（理由：）

問16. 新技術を紹介するパネル等展示コーナーについて聞かせ下さい。

A. とても良かった B. 良かった C. あまり良くなかった
「C. あまり良くなかった」を選択された方（理由：）

問17. この報告会全体で感じたことや意見等ご自由にご記入下さい。

ご協力ありがとうございました。この用紙はロビーに設置していますアンケート回収箱に投函願います。
なお、後日回答のご協力を頂ける方は、以下の FAX 番号に送信して下さい。
FAX：025-231-1283

「平成26年度 建設技術報告会」実行委員会

（表面）

（裏面）

2) 配布・回収

アンケートは受付時に聴講者に配布し、第1会場及び第2会場前ロビー（ホワイエ）に設置した回収箱により回収を行った。なお、アンケート回収率は以下のとおりである。

アンケート回収率の変遷

年	回収率
1995年 (第1回)	27.0%
1996年 (第2回)	10.4%
1997年 (第3回)	39.7%
1998年 (第4回)	24.5%
1999年 (第5回)	26.1%
2000年 (第6回)	33.5%
2001年 (第7回)	42.1%
2002年 (第8回)	37.0%
2003年 (第9回)	32.8%
2004年 (第10回)	19.2%
2005年 (第11回)	36.4%
2006年 (第12回)	28.6%
2007年 (第13回)	27.9%
2008年 (第14回)	29.6%
2009年 (第15回)	48.2%
2010年 (第16回)	49.0%
2011年 (第17回)	48.2%
2012年 (第18回)	45.3%
2013年 (第19回)	47.6%

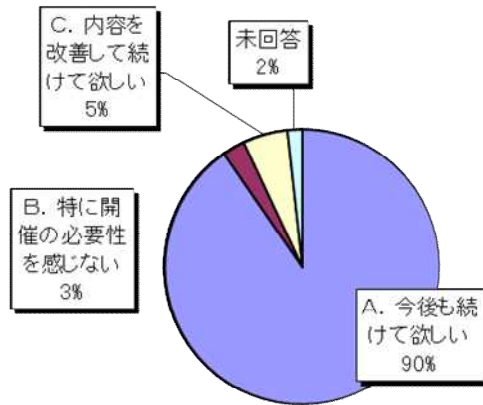
	官公庁	民間	計
配布数	116	264	380
回答数	47	134	181
回収率	41%	51%	47.6%

- 21 -

3) アンケート結果概要

○今後の報告会の開催について

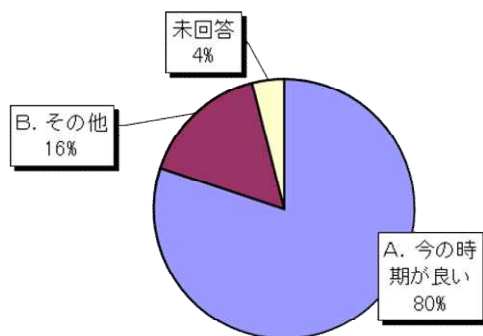
- ・ 約9割が、「今後も継続して欲しい」と回答



A. 今後も続けて欲しい	206
B. 特に開催の必要性を感じない	6
C. 内容を改善して続けて欲しい	12
未回答	4
	228

○報告会の開催時期について

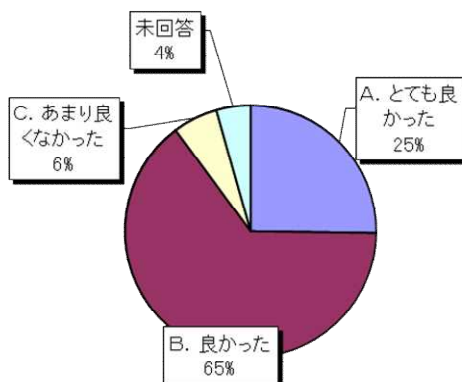
- ・ 8割が「今の時期が良い」と回答



A. 今の時期が良い	181
B. その他	36
未回答	9
	226

○報告会の報告形式や会場設営について

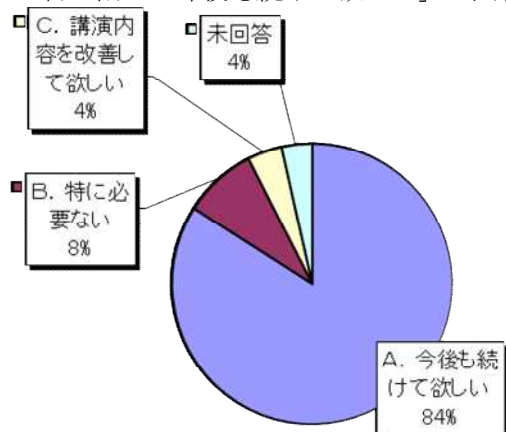
- ・ 9割が「とても良かった」「良かった」と回答



A. とても良かった	57
B. 良かった	146
C. あまり良くなかった	13
未回答	10
	226

○基調講演について

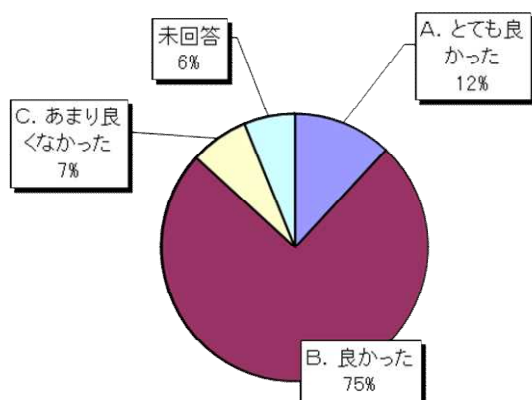
- ・約 9 割が「今後も続けて欲しい」と回答



A. 今後も続けて欲しい	190
B. 特に必要ない	19
C. 講演内容を改善して欲しい	9
未回答	8
	226

○パネル等展示コーナーについて

- ・9割が「とても良かった」「良かった」と回答



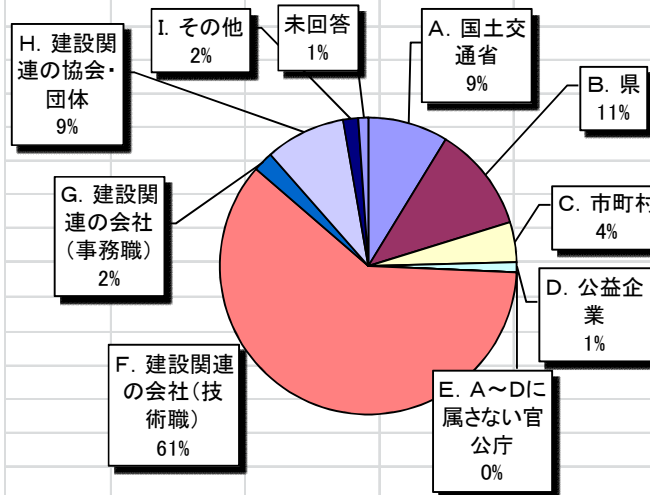
A. とても良かった	27
B. 良かった	169
C. あまり良くなかった	16
未回答	14
	226

○この報告会全体で感じたことや意見等の自由意見（今後の課題抜粋）

- ・ CPDS の登録を午前・午後で分けて頂くとありがたい。
- ・ 新技術を実際に施工に利用した自治体側の発表も聞いてみたいと思いました。
- ・ 失敗事例の紹介もお願いしたい。
- ・ 新技術の対比（各性能）、優位性を聞かせてほしい（各社）。
- ・ 今回の基調講演は大いにためになった。
- ・ パネル等展示コーナーでビデオ等も出来ればいいと思う。
- ・ 早速お昼の NHK ローカルニュースで本報告会が開催されていることが報道された。
- ・ 今後とも国民の理解を深める取組（広報）を重視してほしい。
- ・ ランチと無料駐車場が欲しい。

4) 設問別集計結果

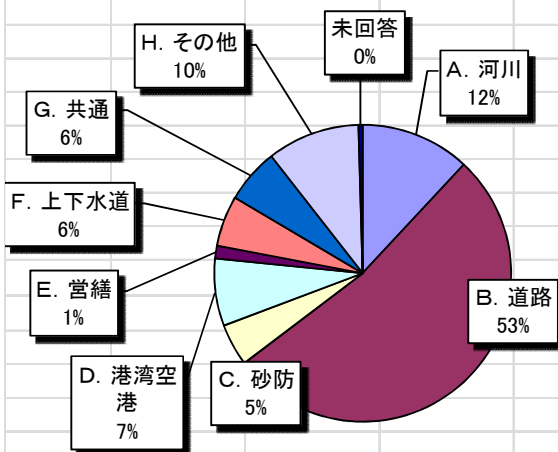
問1. 職業・職種をお聞かせ下さい。



A. 国土交通省	16
B. 県	21
C. 市町村	8
D. 公益企業	2
E. A～Dに属さない官公庁	0
F. 建設関連の会社（技術職）	111
G. 建設関連の会社（事務職）	4
H. 建設関連の協会・団体	16
I. その他	3
未回答	2
	183

I. その他
 ・個人事務所(1)
 ・コンサルタント(1)

問2. 主な仕事の分野をお聞かせ下さい。



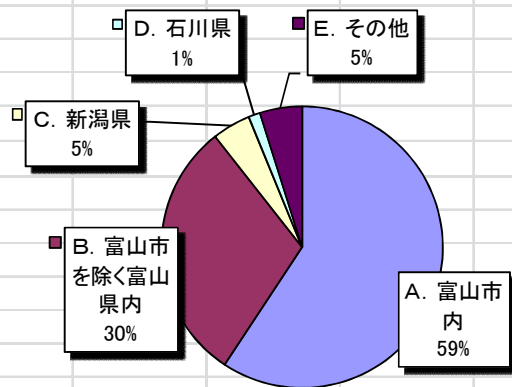
【複数回答有】

A. 河川	26
B. 道路	115
C. 砂防	10
D. 港湾空港	16
E. 営繕	3
F. 上下水道	12
G. 共通	13
H. その他	22
未回答	1
	218

共通
 ・品質確保(1)
 ・技術管理(1)

その他
 ・鉄道(5)
 ・橋梁(4)
 ・宅造(1)・農村整備(1)
 ・電気電通(1)・地質(1)・土木一般(1)
 ・開発(1)・電力(1)・治山(1)
 ・コンクリート(1)
 ・その他(4)

問3. どちらから来られましたか。



A. 富山市内	134
B. 富山市を除く富山県内	68
C. 新潟県	10
D. 石川県	3
E. その他	11
	226

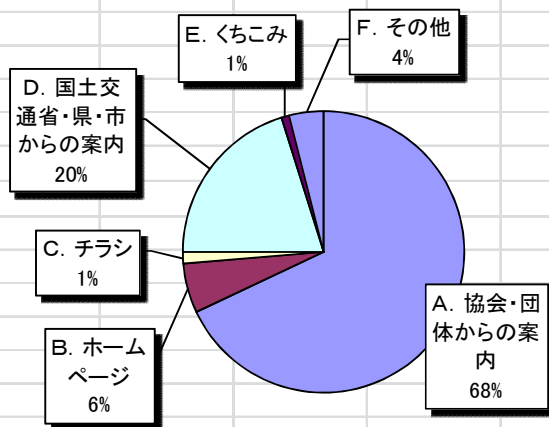
富山市を除く富山県内

・高岡市(7) ・南砺市(4)
 ・射水市(3) ・黒部市(2)
 ・砺波市(1) ・佐渡市(2)
 ・滑川市(1) ・氷見市(1)
 ・魚津市(1) ・入善町(1)
 ・その他(20)

その他

・東京都(3) ・愛知県(2)
 ・長野県(2) ・山形県(1)
 ・福岡県(1)
 ・その他(2)

問4. この報告会を何で知りましたか。



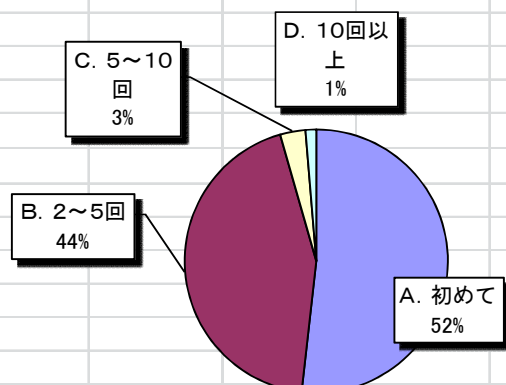
【複数回答有】

A. 協会・団体からの案内	155
B. ホームページ	13
C. チラシ	3
D. 国土交通省・県・市からの案内	46
E. くちこみ	2
F. その他	9
	228

その他

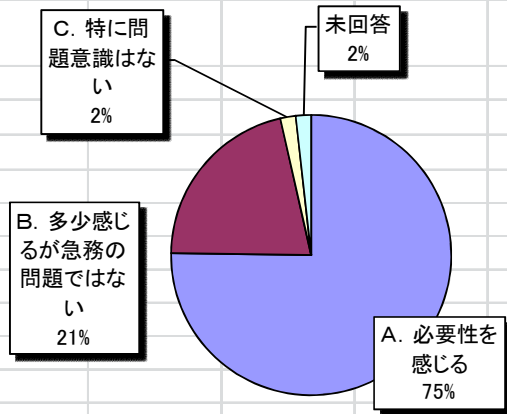
・会社(4)

問5. この報告会の参加回数をお聞かせ下さい。



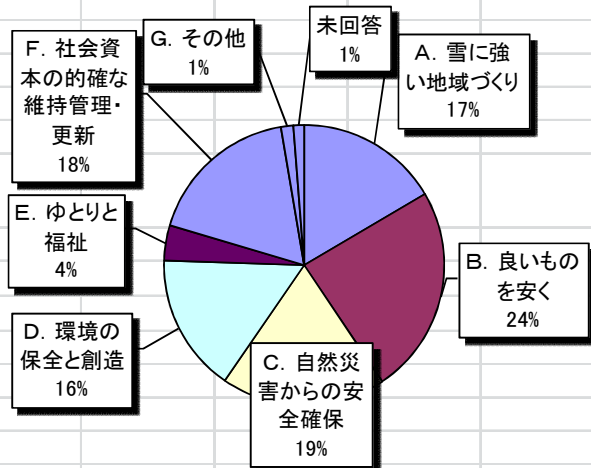
A. 初めて	117
B. 2～5回	99
C. 5～10回	7
D. 10回以上	3
	226

問6. 建設事業への新技術導入の必要性についてお聞かせ下さい。



A. 必要性を感じる	170
B. 多少感じるが急務の問題ではない	48
C. 特に問題意識はない	4
未回答	4
	226

問7. どの分野に必要性を感じますか。



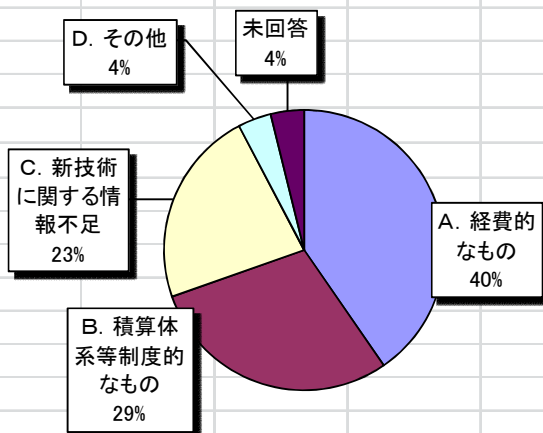
【複数回答有】

A. 雪に強い地域づくり	81
B. 良いものを安く	118
C. 自然災害からの安全確保	93
D. 環境の保全と創造	78
E. ゆとりと福祉	20
F. 社会資本の的確な維持管理・更新	87
G. その他	7
未回答	6
	490

その他

- ・人材不足に寄与、リスク回避、コストパフォーマンスを認める発注様式、現場からの実用性
- ・建設技術レベルアップ、コスト縮減（全分野共通）

問8. 新技術導入の障害となっているものがあるとすれば、それは何かお聞かせ下さい。



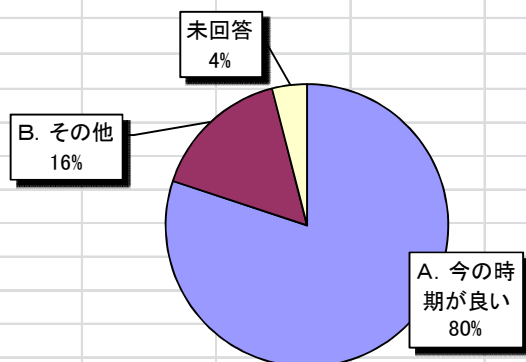
【複数回答有】

A. 経費的なもの	105
B. 積算体系等制度的なもの	76
C. 新技術に関する情報不足	59
D. その他	10
未回答	10
	260

その他

- ・実績重視、新しいものを遠慮しがちな体質
- ・新技術の実績に対する発注者の拒絶反応
- ・前例が少ないこと
- ・従来の管理基準、古い固定観念
- ・実績の割合
- ・単独で新技術を開発することは、耐力のある団体に限られ連携する相手を見つけることが課題。
- ・基礎的科学調査の支援
- ・技術の信頼性
- ・新技術の導入は一技術にこだわらず複数を導入し、お互いの競争によりレベルアップを図ることが重要である。（設計に同じ新技術採用している傾向がある。）
- ・報告書作成が面倒

問10. 報告会の開催時期についてお聞かせ下さい。

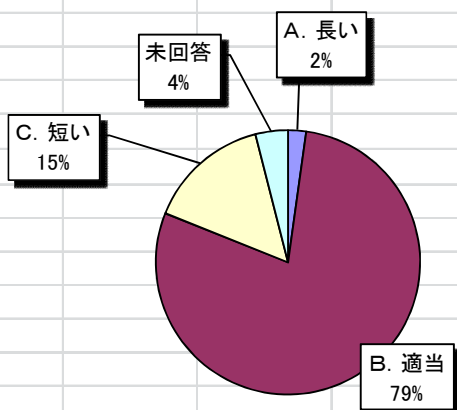


A. 今の時期が良い	181
B. その他	36
未回答	9
	226

その他

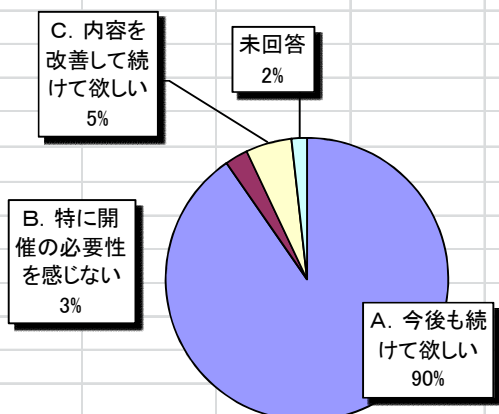
- ・6月(7)
- ・5月(4)
- ・11月(3)
- ・10月(2)
- ・春(2)
- ・2月(1)
- ・7月(1)
- ・4月(1)
- ・7～9月(1)
- ・4～7月(1)
- ・1～3月(1)

問11. 報告技術1題あたりの報告時間についてお聞かせ下さい。



A. 長い	5
B. 適当	179
C. 短い	34
未回答	9
	227

問12. この報告会の開催についてお聞かせ下さい。

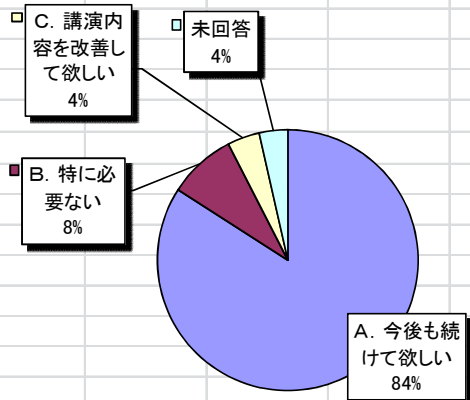


A. 今後も続けて欲しい	206
B. 特に開催の必要性を感じない	6
C. 内容を改善して続けて欲しい	12
未回答	4
	228

問13. 問12で「B」または「C」と答えた方にお聞きします。
理由またはどのような内容を望まれていますか。

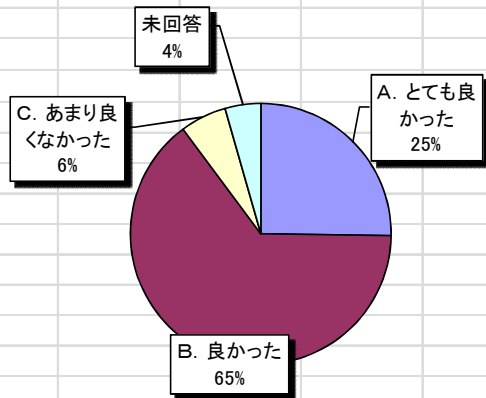
- ・レジュメが多い
- ・国の報告はつまらないので民間だけにしてほしい
- ・官民とももっと多くの技術を保有しており、より多くの技術報告があれば、自らの現場のもとヒットする確率が上がると思います。
- ・土木系が多い。建築系の技術報告があれば良い。
- ・全国的な課題について紹介してほしい。
- ・新技術の情報収集となるから（開催希望）。
- ・毎年開催でなくても良いのでは。

問14. 基調講演についてお聞かせ下さい。



A. 今後も続けて欲しい	190
B. 特に必要ない	19
C. 講演内容を改善して欲しい	9
未回答	8
	226

問15. 発表形式や会場設営についてお聞かせ下さい。

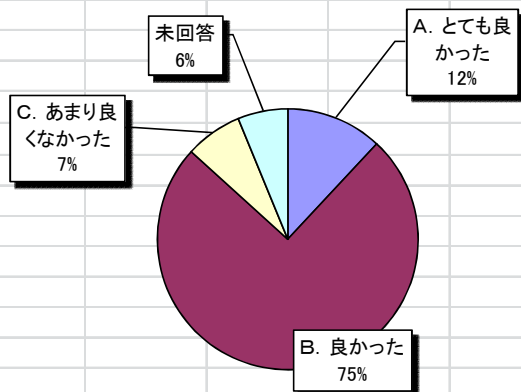


A. とても良かった	57
B. 良かった	146
C. あまり良くなかった	13
未回答	10
	226

Cの理由

- ・第2会場も広い場所にしてほしい
- ・個人の発表の仕方かもしれませんが、声が聞き取れない発表もあり、対策してほしいです。
- ・1階と2階の移動が大変だと感じました。
- ・会場がとても寒くて辛かった。
- ・メインホールは机がなくメモが取りにくかった。
- ・無料駐車場のある会場をお願いしたい。(同様2件)

問16. 新技術を紹介するパネル展示コーナーについてお聞かせ下さい。



A. とても良かった	27
B. 良かった	169
C. あまり良くなかった	16
未回答	14
	226

Cの理由

- ・狭い。(同様2件)
 - ・説明員と展示だけの時間があって欲しい。
 - ・活力を感じない。
 - ・もっと数多く展示してほしい。
- そのためにはスペース不足だったのではないかな。
- ・見る暇がない。

問17. この報告会全体で感じたことや意見等ご自由にご記入下さい。				
・基調講演を行わず、報告論文数を増やす。				
・もっと詳しい資料(技術発表)が欲しい。但し有料でOKです。				
・新技術を実際に施工に利用した自治体側の発表も聞いてみたいと思いました。				
・開会式の前まで正面パネルに画像が写されていたが、				
1コマ当たりの時間が短くて、読み取れない。				
・関係者の方々の努力に感謝しています。				
・各発表者のpptの印刷したものがあればよいと思った。				
・カメラで撮ってる人が多い。本質は邪魔をしているという認識で行動願いたい。				
・CPDSの登録を午前・午後で分けて頂くとありがたい。				
・ランチと無料駐車場が欲しい。				
・ありがとうございました。				
・第1会場は開場広さ・距離とスクリーンのサイズが合っていた。				
(本格的会場だから当たり前だが。)第2会場はスクリーンが足りてなかった。今後要改善です。				
・いろいろな技術が聞けて良いと思います。				
・けんせつフェア並のブースがあった方が良いと思います。				
新潟、石川、富山を持ち回りで開催することが良いと思います。是非今後も続けてください。				
・発表1件の時間が短くて非常に良い、聞いていて疲れない。				
・全体的に少し長いような気がしました。				
・写真(ビデオ)を撮ってる人が多いいたが、個人情報なので顔は				
使わないよう注意する一言が最初にあってもいいと思いました。				
・報告等の資料が欲しい。				
・とても良いイベントだなと思います。続けてください。				
・パネル展示コーナーをもっと充実させてほしい。				
・新技術の対比(各性能)、優位性を聞かせてほしい(各社)。				
・駐車場利用料金の割引等はできないのでしょうか。				
・スタッフの方の気配りが良かった。				
・第2会場ではスクリーンが下にあるため、後ろでは見にくい。				
・民間会社の発表を聞く機会があまりなかったので、今回勉強になったと思いました。				
・基調講演が良かった。				
・今回の基調講演は大いにためになった。				
・あまり知る機会の無い新技術について知ることができ有意義であった。				
これを機に特に知る必要にあるものは個別に情報収集したい。				
・新技術・新工法の研究発表が多く、大変参考になった。				
・報告時間があと5分長ければ良いのでは。				
・失敗事例の紹介もお願いしたい。				
・グループ毎の内容・工種・種別等を同種・同類にしてもらいたい。(発表会社別も含む)				
・基調講演が短いと思います。				
・今後の課題であるインフラ整備の長寿命化対策技術の発展の必要性を強く感じた。				
・パネル等展示コーナーでビデオ等も出来れば良いと思う。				
・早速お昼のNHKローカルニュースで本報告会が開催されていることが報道された。				
今後とも国民の理解を深める取組(広報)を重視してほしい。				
・各分野にわけて類数を増やす。				